

# 経済・金融 フラッシュ

## 貿易統計 15年4月～貿易収支は再び赤字、黒字定着の可能性は低い

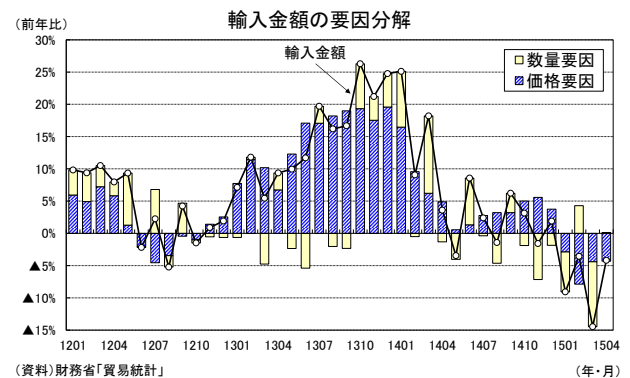
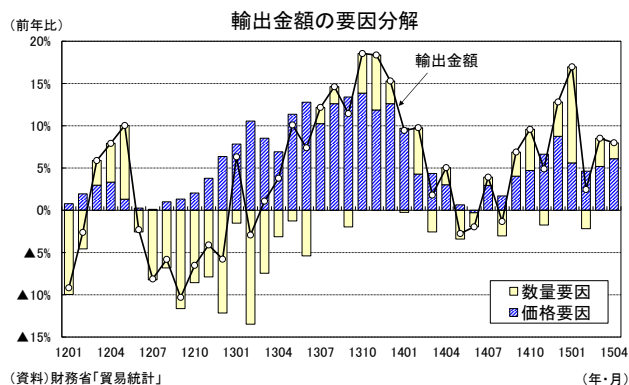
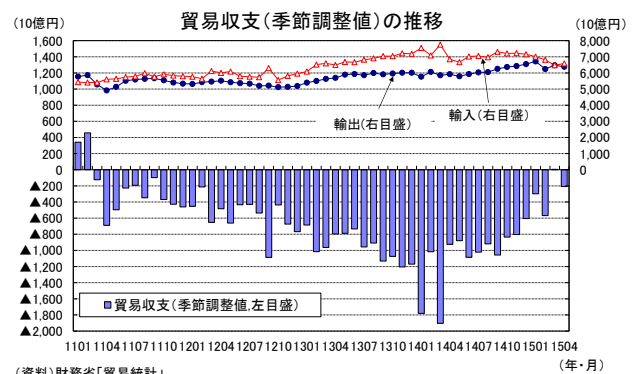
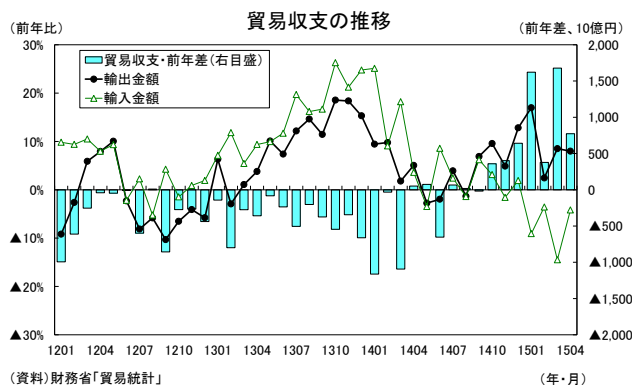
経済研究部 経済調査室長 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 貿易収支は再び赤字に

財務省が5月25日に公表した貿易統計によると、15年4月の貿易収支は▲534億円と2ヵ月ぶりの赤字となったが、赤字幅は市場予想（QUICK集計：▲3,250億円、当社予想は▲2,743億円）を下回った。輸出が前年比8.0%（3月：同8.5%）の増加となる一方、輸入が前年比▲4.2%（3月：同▲14.5%）と4ヵ月連続の減少となったため、貿易収支は前年に比べ7,721億円の改善となった。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比1.8%（3月：同3.2%）、輸出価格が前年比6.0%（3月：同5.1%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比0.1%（3月：同▲10.3%）、輸入価格が前年比▲4.3%（3月：同▲4.6%）であった。



季節調整済の貿易収支は▲2,087億円の赤字となった。貿易収支は3月には東日本大震災以降で初の黒字（50億円）となったが、輸出が前月比▲1.5%（3月：同3.8%）と2ヵ月ぶりに減少する

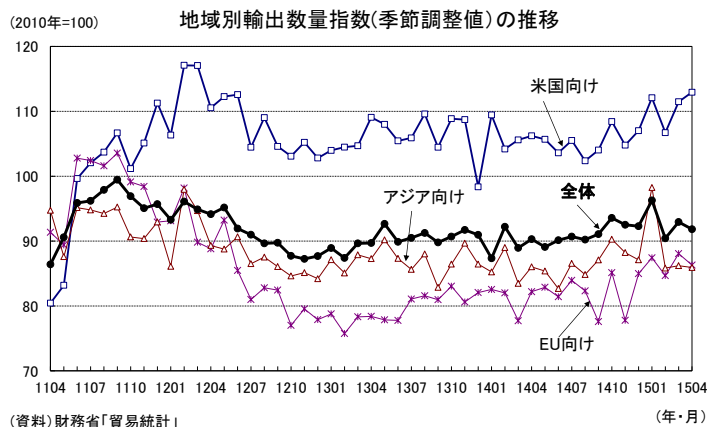
一方、輸入が前月比1.8%（3月：同▲5.0%）と5ヵ月ぶりに増加したため、再び赤字となった。

## 2. アジア向け輸出が弱含み

4月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比7.1%（3月：同5.8%）、EU向けが前年比5.2%（3月：同13.7%）、アジア向けが前年比0.1%（3月：同3.3%）となった。

季節調整値（当研究所による試算値）では、米国向けが前月比1.3%（3月：同4.5%）、EU向けが前月比▲2.0%（3月：同4.0%）、アジア向けが前月比▲0.3%（3月：同4.0%）、全体では前月比▲1.2%（3月：同2.8%）となった。

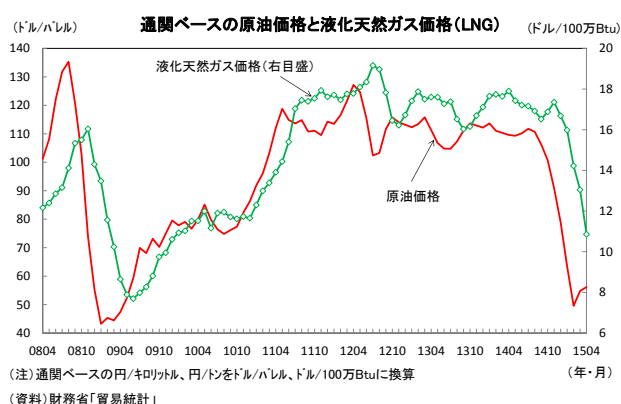
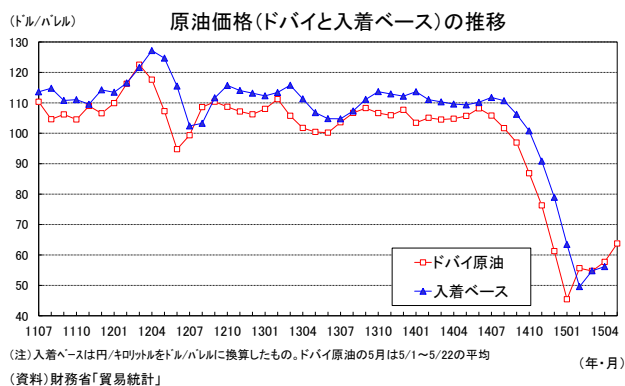
米国経済は15年1-3月期にはほぼゼロ成長となったが、基調としては底堅さを維持しており、日本からの輸出も自動車の持ち直しなどから回復を続けている。一方、アジア向け輸出は中国、その他新興国の景気減速に伴い弱含みの動きとなっており、輸出全体の持ち直しは緩慢にとどまっている。



## 3. 貿易黒字の定着には至らず

4月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=56.2ドル（当研究所による試算値）となり、3月の54.8ドルから上昇した。ドバイ原油は、1月の40ドル台半ばから足もとでは60ドル台まで上昇している。このため、通関ベースの原油価格は5月以降も上昇する可能性が高い。一方、調達価格が原油価格連動型の長期契約となっている液化天然ガス（LNG）の輸入価格は、既往の原油価格下落の影響が反映されることによりしばらく低下するが、夏場以降は上昇に向かうだろう。

輸出数量はここにきて持ち直しているが、海外経済の回復が緩やかにとどまっていることから伸びを大きく高めることは期待しにくい。一方、輸入数量は個人消費を中心とした国内需要の回復を受けて増加ペースが高まることが見込まれる。貿易収支（季節調整値）は当面、ゼロ近傍で一進一退の動きが続いた後、夏場以降は再び赤字基調になると予想する。



4. (お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。